

令和5年度 学校経営計画書

学 校 名 三次市立河内小学校

校 長 名 児玉 克恵

I 学校の状況

学級数	3	児童・生徒数	18	教職員数	5
メールアドレス	kohchi-e@school.miyoshi.hiroshima.jp				
ホームページアドレス	http://www.school.miyoshi.hiroshima.jp/elementary/kouchi/				

II 学校教育目標

みよし学園 小中一貫教育目標	まちづくりに参画・貢献し、高い志を持つ児童生徒の育成 (家庭・地域との協働した学びと発信を通して)
河内小学校 教育目標	気づき 考え 実行する 主体的な子供の育成 ～ つながる・挑む・考動する ～

III 自校の使命・存在意義（ミッション）

コミュニティ・スクールを核に、郷土愛・地域参画・地域貢献を意識した「資質・能力」の育成を図り“魅力ある学校づくり”を実現させ、地域（保護者）の期待に応える。

IV 重点事項（努力点）

【目指す子供像】 キーワード『自律』

- たがいのよさを認め、支え合い、協働できる子 **つながる**
- 目標に向かって挑戦し、やり遂げようと努力できる子 **挑む**
- 自ら判断し、よりよい方法を考え、行動できる子 **考動する**

【育成を目指す資質・能力（みよし学園）】

- コミュニケーション能力：自分の考えを持ち、他者の意見を受け止め、言葉で伝え合うことを通して、互いを理解し認め合える。
- 協調性：目的と目標を共有し、目標達成のために自分の役割を理解し、他者と協力できる。
- 主体性：自らの夢や志を持ち、自分から行動して新たな価値を生み出し、積極的に貢献しようとする。

V 中心価値・行動規範

【目指す教職員像】

- 「伴走者」として、児童の可能性を信じ、愛情を持って関わる教職員 **子供ファースト**
- 互いに認め合い、感謝し、温かく指摘し合える教職員 **同僚性の構築**
- 授業で勝負し、結果を出せる教職員 **プロ意識**

【目指す学校像】

- すべての児童が自分の力を出し伸ばす学校 **主体性・成長実感**
- 安全で一人一人が大切にされる学校 **危機管理・人権教育の推進・他者理解**
- 保護者・地域と目標を共有し、協働できる学校 **コミュニティ・スクール**

VI 現状分析

外 部 的 要 因	O（支援的要因） 【地域】 ・自治連合会を中心に，伝統的な学校支援の風土 ・教育力の高い人材と豊富な地域教材 ・「学校を核とした地域づくり」を行いたいという地域の思い。 【市教委・県教委】 ・明確な方針と施策 ・ICT等，教育環境の整備・充実 ・研修機会の創出 ・市費非常勤講師 ・県費特別非常勤講師	S（強み） 【学校】 ・チームとして校務運営に関わることができる教職員 ・ICT教育等，変化に前向きに対応しようとする教職員集団 ・小規模校のよさを生かした異年齢集団による活動 ・地域と協働した教育課程 ・表現力向上に向けた教育研究 ・「キャリア教育指定校+事業」による小中一貫した資質・能力の育成 【児童】 ・明るく素直で落ち着いた学習態度 ・学習リーダーを中心に主体的に学習に取り組む児童 ・地域を愛する児童 【保護者】 ・学校を信頼し，協力的な保護者（学校に対する肯定的評価95%以上） ・参観日や学校行事への高い参加率 ・主体的，自治的なPTA活動	内 部 的 要 因	支援的要因と強みを生かした活動・取組 ○複式の授業改善 ・発達段階に応じたリーダー学習の定着による主体的な学びの実現 ○キャリア教育の充実 ・育成すべき資質・能力を共有した地域協働活動や外部講師の活用により，各教科・総合的な学習の時間の学習を充実させるカリキュラムの開発 ○共育の推進 ・地域・保護者への情報公開と更なる連携 ・コミュニティ・スクール化による地域・保護者とのビジョンの共有と協働
	T（阻害的要因） 【地域】 ・児童数の減少 ・指導者層が高年齢化・固定化 ・保育所の適正化による閉所 【保護者】 ・PTA会員数の減少に伴うPTA活動の限界	W（弱み） 【学校】 ・教頭が担任兼務，完全複式校で職員数が少なく，職員一人一人の校務が過重 ・職員の出張，休暇取得時の組織的な校務運営が困難 ・学校の環境整備に地域支援が不可欠 【児童】 ・学力の個人差，個別支援を要する児童 ・相手の気持ちを考えない言動や自己中心的な行動 ・大きな場で思いや考えを，自分の言葉で表現することが苦手 ・社会への興味関心が薄く，経験不足から，社会事象に対する知見が浅い。 【保護者】 ・PTA会員数の減少		弱みを克服し，阻害的要因を回避する解決策 ○個別最適な学びの推進 ・組織的な個別指導とICTの活用による基礎的な知識・技能の習得 ○「学び合い」のある授業づくり ・複式指導のデメリットをメリットに変える主体的で対話的な学び方の育成 ○自己肯定感の向上 ・学校行事や作品応募，外部からの肯定的評価を活用した達成感，自己有用感の獲得 ○キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業の推進（県教委指定事業） ・小中連携したカリキュラムの開発（三次中学校区オリジナルカリキュラム） ・外部人材の活用による多様な価値への気づき

VII 中期経営目標及び短期経営目標

	中期経営目標	短期経営目標	評価項目
確かな学力の育成	学力の定着・向上	基礎学力の向上	・単元テスト平均値 80%以上達成の児童 80%以上 ・公的学力検査における活用力全科目全国平均以上
		育成すべき資質・能力の向上	・「資質・能力」児童意識調査，外部アンケートによる肯定的評価 80%以上 ・学習したことを発表する場を各学年 1 回以上設定（参観日，発表朝会，ICT の活用等）
豊かな心の育成	社会性，自己意識の向上	自己効力感の向上	・児童アンケートの「自己効力感」「自己肯定感」に関する項目において，肯定的な回答をした児童の割合 80%以上
		児童会活動の活性化	・児童アンケートの「自己指導能力」に関する項目において，肯定的な回答をした児童の割合 80%以上
健やかな体の育成	自律的な生活習慣の定着と体力の向上	基本的生活習慣の充実	・3点固定が定着した児童の割合 80%以上 ・メディアコントロール実施による達成率 80%以上
		体力・運動能力の向上	・体力・運動能力調査において，国・県平均を上回った児童の割合 70%以上
信頼される学校	学校・家庭・地域との連携した“魅力ある学校づくり”の推進	小中一貫教育の充実・発信	・学校評価アンケートの情報公開における肯定的評価 90%以上 ・HPや通信等でC.Sに係る取組を毎月発信
		地域から学校への満足度・信頼度の向上	・学校への保護者，地域アンケートの肯定的評価 90%以上 ・保護者，地域関係者の学校支援活動参加数